

平成30年度政務活動費収支報告書

平成31年3月26日

北広島市議会議長 佐藤敏男様

会派名 市民ネットワーク北海道

代表者名 田辺優子



北広島市議会政務活動費の交付に関する条例第7条の規定に基づき、下記のとおり政務活動費に係る収入及び支出について報告します。

記

1 収入 政務活動費 312,000 円

2 支出

使途基準項目	金額(円)	内 容
研究研修費	56,924	公共施設総合管理計画策定後の次のステップセミナー、ファシリテーター研修・まちづくりフォーラム等
調査旅費	254,261	行政視察(5月8～9日岩手県紫波町、同県盛岡市、同県滝沢市 女性議員の会4THINK視察・2名)、(8月29～31日兵庫県姫路市、広島県三次市、同県広島市・2名)、(11月13日芽室町・2名)
資料作成費		
資料購入費	1,560	書籍等
広報費		
広聴費		
要請及び陳情活動費		
合計	312,745	

3 残額 0 円

注1 内容欄は、主たる内訳を記載すること。

2 支出の使途基準項目別、支払先別の調書を添付すること。

3 政務活動費を充てた経費に係る領収書(領収書を徴することが困難な場合は、経理責任者の支払証明書)の写しを添付すること。

使途基準項目別支払調書(研究研修費)

年	月	日	内 容	支出額	備考
30	4	13	公共施設総合管理計画策定後の次のステップセミナー・札幌市・1名	10,000	
30	4	13	同上 交通費	1,480	
30	4	28	ファシリテーター研修・まちづくりフォーラム・札幌市・2名 札幌市・1名	4,500	
30	4	28	同上 交通費	2,840	
30	6	16	カジノ問題公開学習会(市民クラブ、日本共産党、市民ネットワーク北海道、無党派合同開催・按分)	3,364	
30	7	11	全国地方議会サミット 東京都新宿区・1名	10,000	
30	8	23	北大公共政策大学院地方議員向けセミナー・札幌市・1名	6,000	
30	8	23	同上 交通費	1,560	
30	9	29	議会技術研究会オータムセミナー	1,000	
30	9	29	同上 交通費	1,560	
30	11	4	全国シェルターシンポジウム 札幌市 2名	7,000	
30	11	4	同上 交通費	2,840	
30	11	24	ひきこもり学習会	500	
30	11	25	ローカルマニフェスト推進連盟・創生北海道地区協議会設立フォーラム	3,000	
30	11	25	同上 交通費	1,280	
合 計				56,924	

使途基準項目別支払調書(調査旅費)

年 月 日			内 容	支出額	備考
30	4	27	行政視察(5月8~9日 岩手県紫波町、同 県盛岡市、同県滝沢市 女性議員の会 4THINK視察・2名 航空券・JR代(パック料金)	64,720	
30	5	8	同上 宿泊費	11,000	
30	5	8	同上 オガールプロジェクト視察研修費	6,480	
30	5	9	同上 タクシー代・按分(2名分)	3,475	
30	5	8・9	同上 交通費	6,120	
30	7	31	8/29行政視察 JR乗車券	5,400	
30	8	29	行政視察(8月29~31日 兵庫県姫路市、 広島県三次市、同県広島市・2名) 航空券往復 2名分	51,432	
30	8	29	同上 JR乗車券(新幹線)	38,240	
30	8	29 ~31	同上 交通費	14,730	
30	8	29	同上 宿泊費	23,200	
30	8	29	同上 お土産代(白い恋人)	4,676	
30	8	31	同上 スタジアム見学料	3,000	
30	11	12	お土産(白い恋人)	2284	
30	11	13	芽室町視察交通費	19504	
合 計				254,261	

使途基準項目別支払調書(資料購入費)

年 月 日			内 容	支出額	備考
30	8	1	つくば市の財政白書	700	
30	8	1	総合運動公園住民投票記録集	500	
30	8	1	送料	360	
合 計				1,560	

北広島女性市議の会 4TINK 視察研修報告書

期 間	2018年5月9日(水)
-----	--------------

<視察者> 木村真千子、田辺優子、滝久美子、谷浦浪子、永井桃
稲田保子、鶴谷聡美

調査地選定理由

岩手県盛岡市 もりおか女性センター

調査内容： 男女共同参画の視点を生かした防災への取り組み

【選定理由】 女性の視点を盛り込んだ防災の備えについて、超党派女性議員7名で必要性の認識が一致し、活動に役立てるため。

<報告者> 鶴谷聡美

もりおか女性センター 平賀圭子センター長、及び女性スタッフ3名
(指定管理者/NPO法人 参画プランニング・いわて 理事長)

2005年、男女の性別にかかわらず(中略)安全で安心な暮らしが保障される心豊かな地域社会の実現に寄与することをミッションに、NPO法人 参画プランニング・いわて設立。翌年、もりおか女性センターの指定管理者となる。

東日本大震災の支援活動と現在に至るまでのお話を伺った。

震災発生から2週間後に支援活動を開始し、センター施設を活用し支援物資の受入れと配達を担った。必要とする先へ物資を届けに動くも、避難所内のトラブル防止のため身元確認がとれない支援者は立ち入れない状況があり、独自の助産師ネットワークからの紹介で避難所へ入ったところ、避難所内の大半が健常者。子ども、赤ちゃん、高齢者は、迷惑をかけることを懸念し車などに避難していた。支援物資は、避難所内の被災者にしか手渡っていない実態に、センターの役割として必要なものを身元確認できる女性たちに(女性経由で)届けることにこだわり活動。配達は国の資金援助を元に「デリバリーケアプロジェクト」を立ち上げ、仕事を失った女性を雇用し経済的自立支援につなげたという。

また、避難所によっては、男性リーダーの「地域の住民はみな家族」発言からプライバシーへの配慮がされず、性的嫌がらせや下着の持ち去り等の実態があり、声があげられず社会的に知られることがなかっただけで数多くあった。被災者支援の現場に女性の人数が少ないこと、避難所運営のしくみづくりに女性が参画できていないことが要因であり、センター主催の女性の防災リーダー養成をはじめ、これからは町内会長、PTA会長、あらゆる立場に女性たちを参画させることが必要と説得力をもって話された。

北広島女性市議7名が在任期間で共通して取り組めるテーマとして、この視察を生かし何かの形となるよう活動していきたい。

参考/盛岡市議会定数38名中、女性5名。

市民ネットワーク北海道 視察研修報告書

期 間	平成 30 年 8 月 29 日 ～ 平成 30 年 8 月 31 日まで
-----	---------------------------------------

<視察者> 田辺優子、鶴谷聡美

調査地選定理由
① 姫路市 調査内容：ひめじ生物多様性戦略について 【選定理由】子どもを対象とした環境教育の取り組み視察調査
②三次市（広島県） 調査内容：ネウボラみよしについて 【選定理由】H30年より三次市妊娠・主産・子育て支援センターを開始 先進地視察調査
②広島市 調査内容：広島ボールパークタウン整備事業 【選定理由】本市のボールパーク構想の周辺整備の参考のため

①ひめじ生物多様性戦略	報告者	鶴谷聡美
<p>姫路市は、先人から受け継いだ豊かな自然環境をより良い形で次世代に継承するため、2016年3月に生物多様性姫路戦略を策定。将来を担う子どもたちに、身近な自然の豊かさを知り、守りたいという心を育むことを目的に、毎年、市内一小学校と協力し、校区内の植物、昆虫、両生爬虫類、鳥類などについて専門家による調査を実施。</p> <p>ボールパーク構想におけるアクセス道路工事などで、野幌原始林周辺の自然や希少な動植物への影響が懸念されるため、北広島市でも独自の生物多様性地域戦略の策定を検討するべきと感じた。</p> <p>姫路市のように、子どもを含めた市民参加による生物多様性調査は、豊かな自然環境を守る意識醸成につながっていく。国や北海道においても、生物多様性の戦略を策定しているが、当市の中の身近な生物多様性を保全するための施策等提案につなげたい。</p>		

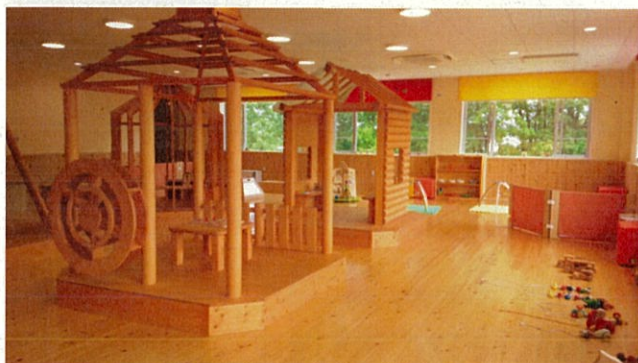


報

三次市は、人口約 52,700 人で 0 才児人口は約 340 人。高齢化率は 35.2% と高いが、子育て支援に力を入れている。

子育ての不安や負担を軽減するため、切れ目ない母子保健と子育て支援が、一体となった「ネウボラみよし」を今年度から開設。市庁舎内の拠点とサテライト 2 カ所を設置。対象は、妊娠前から 18 歳までの子どもがいる家庭で、不妊治療・不育治療の費用の助成も充実している。母子保健推進員は 87 名、赤ちゃん訪問時に保健師に同行している。また、学童期、思春期、成人期にわたり、小中学校や教育委員会と連携して、いのちの大切さを学ぶ取り組みなどを実施している。

子育て支援の活動で出会う子育て家庭の様子を見守っていると、依然と比べ家庭での子育て力が弱くなっている場面も少なくないことは、子育て支援のネットワークでも話題になる。18 歳までを対象とした三次市の取り組みは、子育て支援施策の子育て世代向け移住ガイド「MIYOSHI TO KURASO」に掲載され、子育て施策の充実が発信されており安心感が大きい。転入する子育て家庭の方から話を伺うと、当市の子育て支援施策の充実は、概ね認知されていると感じることや、子どもの権利条例が制定されていることから、当市の子育て世代包括支援事業は、18 歳までを対象とする内容で取り組んでいただきたい。



広島ボールパークタウン整備事業	報告者	鶴谷聡美
<p>ボールパークタウンは、広島市民球場（マツダスタジアム）を中心に、大型商業施設やスポーツクラブ、婚礼施設、分譲マンションなどで構成されています。球場の用地取得・建設費の償還財源は、カープ球団・アマチュア野球等の使用料で、償還。球場（90億）の大規模修繕費用の財源はスタジアム命名権収入で確保しています。</p>		
<p>本市に決定した日本ハムファイターズのボールパーク構想では、球場等は球団が建設しますが、周辺アクセス道路や上下水道の整備等は、行政負担です。私たちの税金がどのように使われるのか、将来の負担など、わかりやすい情報の提供が必要です。</p>		



市民ネットワーク北海道 視察研修報告書

期 間	平成 30 年 11 月 13 日
-----	-------------------

<視察者> 田辺優子、鶴谷聡美

調査地選定理由
<p>河西郡芽室町子育て支援課発達支援係 地域コーディネーター／清末有二</p> <p>調査内容：風の子めむろの運営について担当課訪問、現地視察</p> <p>【選定理由】30年1月に芽室町で開設した、子どもの居場所事業 学習支援、遊び、食事の提供、高校生・学生までの多世代を対象としている道内でも先駆的な取り組みなことから、視察研修に選定。</p>

風の子めむろ	報告者	鶴谷聡美
<p>○児童厚生施設／芽室町発達支援センター「ちいむ」にて、担当の説明を受けた後、芽室町公民館の現地へ移動し見学。</p> <p>平成 28 年に、子ども貧困対策部会（子育ての木委員会）において、子どもの貧困対策の調査について協議を開始。学習支援や居場所づくりについて、実施場所・運営主体の情報収集等を経て、北海道の補助事業メニューを利用し、居場所づくりの開設に向け協議をすすめてきた。</p> <p>平成 30 年 1 月 16 日、小学生から高校生までの子どもたちが、「遊ぶ・食べる・学ぶ」ことのできる居場所としてスタート。</p> <p>運営は、帯広市内で子ども食堂の運営実績がある団体に委託し、①学習支援②遊び③食事が提供されており、訪問時は、10 名ほどの小中学生が参加。芽室町公民館の和室で開催。</p> <p>中学生・高校生は自分の学習や、小学生の学習支援ボランティア活動にも取り組んでいました。調理と食事は公民館調理室。早い時間に帰宅する小学生が調理室で食事を囲んでいました。高校生は小学生に大人気で、賑やかな笑い声に囲まれていました。オールめむろの子育てがすすめられています。</p> <p>北広島では、学習支援事業が順調に利用されており、福祉センター機能の移転を機に、食事提供や対象者の設定の見直しなど、当市のニーズや実態に合った事業展開に、芽室町を参考に取組んでいけるのではないかと思います。</p> <p>○芽室町発達支援センター「ちいむ」と併設されている、めむろ子どもセンター「あいりす」の施設も案内していただきました。児童厚生施設として、児童館・学童クラブ・子育て支援スペースが整備されています。</p> <p>○この視察調査の数日後、芽室町公式 Facebook ページにて紹介されました。</p>		

